

登録コード	L2220100	開講年度	2026				
担当教員	磯部 美穂			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化概論						
英文授業名	German Language Culture: Introductory						
授業タイトル	ドイツ言語文化史						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第5講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			ドイツ語を例として言語の成り立ちを理解し、過去の出来事から現在の社会を理解し、未来を考えることができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			ドイツ語を例として言語の成り立ちを理解し、過去の出来事から現在の社会を理解し、未来を考えることができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	現代ドイツ語の成立に至るドイツ語の歴史または研究史を概観していく。まずは現代のドイツ言語文化圏について概説した後、ドイツ語研究のはじまりから現在の研究動向までを概観し、言語史研究の用語や基礎知識を習得することを目標とする。その上で、文字記録の始まる初期ドイツ語から中世のドイツ語、現代のドイツ語への発展過程について具体的な事象を概観しながら理解を深めていく。						
授業計画	ドイツ語の成り立ちを理解するため、現代のドイツ語を巡る話題を概観した後文字記録の始まる初期のドイツ語、中世のドイツ語、近世のドイツ語に関して、それぞれの時代における文化的社会的背景を概説する。ドイツ言語文化圏の形成と現代ドイツ語への発展過程との相関関係を探りながら、講義形式で授業を進めていく。 第1回 ガイダンス 現代のドイツ語（ドイツ語を巡る話題） 第2回 現代のドイツ語（複数中心的言語） 第3回 近代のドイツ語（ドイツ語の文法化と正書法） 第4回 近代のドイツ語（ドイツ語学のはじまり） 第5回 ドイツ語先史（ドイツ語研究の基礎） 第6回 初期のドイツ語（文字記録のはじまり） 第7回 初期のドイツ語（初期ドイツ語の文献） 第8回 中世のドイツ語（中世のドイツ語圏社会） 第9回 中世のドイツ語（宮廷文化と恋愛抒情詩） 第10回 中世のドイツ語（騎士文化と宮廷叙事詩） 第11回 中世のドイツ語（都市の発達と実用文書） 第12回 近世のドイツ語（メディアの転換） 第13回 近世のドイツ語（ルターのドイツ語） 第14回 近世のドイツ語（書きことばの統一） 第15回 まとめ（確認テスト）、授業アンケート 時代別に小レポートを提出してもらう。						
成績評価の方法	小レポート30%、確認テスト30%、期末レポート40%の比率で総合的に言語の役割や文化史に対する学問的な理解度を評価する。						
成績評価の基準	小レポートで授業内容の要点が的確にまとめられ、それと関連した自らの意見が端的に述べられていれば水準にある。 確認テストで、問いに対して、適切な解答ができれば水準にある。 期末レポートにおいて、言語と社会・文化・メディアの関係性について、自ら新たな問いをたて、解決できればかなり上にある。						
事前事後学習の内容	参考図書を読み、予め授業内容を理解しておくことが望ましい。 eAlpsから講義ノートをダウンロードし、持参することが望ましい。 授業後は、再度、授業用スライド、参考図書を熟読し、理解を深めること。						
履修上の注意	ドイツ語の基礎知識があることが望ましい。 履修の際には、学習目的と合致するか十分に検討した上で受講すること。 授業ではすべての資料をスライドで投影するため、各自でPC等を持参・使用する必要はない。						
質問、相談への対応	メールにて対応する。メールアドレス：isobe@shinshu-u.ac.jp						
教科書	eAlpsコース内にスライドおよび講義ノートのファイルを掲載する。 適宜、ドイツ語の文献から参考となる部分を抜粋し、要約したプリント等を配布する。						

参考書	Besch, Werner/Wolf, Norbert Richard: Geschichte der deutschen Sprache. Berlin. 2009. Ernst, Peter: Deutsche Sprachgeschichte. Korrigierter Nachdruck Wien 2006 (= UTB Basis 2583) 須澤通・井出万秀『ドイツ語史—社会・文化・メディアを背景として』 （郁文堂）2009年。 この他、授業中に適宜、紹介する。
------------	--